

SUPPORT NEWS

あなたの想いを、私の想いをかたちにしたい・・・
地域福祉の観点からだれもが自分らしく生きていける社会を目指します。

NPO法人 地域福祉サポートちた

も く じ

- | | |
|--------------------------|------------------------------|
| □新春のご挨拶…………… 1P | □手づくりカフェAda-coda20周年報告 …… 3P |
| □サービスマネジメント活動報告会…………… 2P | □インフォメーション…………… 4P |
| □NPOマネジメントセミナー報告…………… 2P | |

新春のご挨拶

明けましておめでとうございます。皆様、お健やかに新春をお迎えのこととお喜び申し上げます。本年も引き続き、よろしく願い申し上げます。

昨年を振り返りますと、私たちの暮らしが大きく変化したことといえば、新型コロナウイルス感染症（COVID19）の位置づけではないでしょうか。これまでは、感染症法上2類相当である新型インフルエンザ等感染症でしたが、令和5年5月8日からは5類感染症に移行され、法律に基づき行政が様々な要請・関与をしていく仕組みから、個人の選択を尊重し、国民の自主的な取組をベースとした対応に変わりました。いま私たちは、社会全体に漂う閉塞感から解放され、場を共有する喜びや悲しみを分かち合う「ぬくもり」の意味を考える機会が得られたと捉えています。その一方で、医療や福祉分野の現場は人材不足も相まって、非常に厳しい状況です。一人ひとりがどのような行動をとるべきなのかが個人の判断に委ねられる環境下だからこそ、よく考え、よく話し合い、ともに力を合わせる“まちづくり”を進めてまいります。

さて、私たちが目指す“まちづくり”とは、「誰もが自分が望んでいる地域で、自分らしく生き、心豊かに、幸せに暮らしていける地域」に向けて、福祉の心と市民意識を持つ人材を養成しています。学びあう機会から発する率直な意見を社会に向け、できることから、気づいた人から活動に参加し、一人ひとりが発信していかなければなりません。

この年末、サポちたスタッフの一人が巣立っていきました。当時通信制高校に通っていた彼女との出会いは、就労準備支援事業所ゆっかむが提供する5日間の就労体験でした。



20周年事業のロゴ

その後、本人希望で約2年間のアルバイトを続け、今年度は市民活動センターまつりや手づくりカフェAda-coda20周年事業の主担当として活躍しました。出会った頃の彼女は、先の見えない将来に不安を抱え、生き方さえも見失っていましたが、今は「分からないなりに好きなことをして生きていこうと思うようになった」と話してくれました。

先日、医療分野で働く40代のがん経験者のご家族より、「彼女の体験談を役立ててください」と、〈がんノートmini〉をご紹介いただきました。これはNPO法人がんノートの取組の一つ（※右コードから視聴可）です。30分のインタビュー動画には、仕事と子育ての両立に揺れる彼女の不安と、それを支える家族、そして信頼できる美容師や患者会が紹介されています。

地域共生社会に向けた仕組づくりと同時に、一人ひとりの生き方を受け入れる創造力と寛容さを広げ、私の身の回りで困っている人に手を差し伸べる福祉の心を育てていきたいと思います。市野恵



動画配信#56

私たちの活動は、みなさまの年会費や寄付で支えられています。例えば【Amazonみんなで応援プログラム】では、サポちた会員団体の支援してほしい商品を“ほしい物リスト”に登録しています（詳細は下記コード参照）。また【介助奨学生プログラム】指定寄付にもご協力をお願い申し上げます。

【年会費 / 現在の会員数】

- 正会員 団体:15,000円, 個人:5,000円 / 団体29,個人29
- 準会員 団体: 5,000円, 個人:3,000円 / 団体24,個人31

【振込先】

三菱UFJ銀行 知多支店 (普)1413965
特定非営利活動法人地域福祉サポートちた

★サポちたの“ほしい物リスト”はこちらから→



■サービスマネジメント活動報告会

今年度は、82名の学生が27の団体で活動を行った。一年間のサービスマネジメントプログラムで身につけた自己表現力を活かして、学生から研究成果を発表した。大林ゼミ、藤井ゼミの学生による、活動を通じた気づきや団体への提案を一部紹介する。

- ・子どもたちから団体の活動がどう見えているか、気づきがあった。不登校支援を学んでいきたい。
- ・支援者として、手を出しすぎてしまうのは、利用者を尊重していないことだと気づいた。
- ・駅など集客が見込める場でのパン販売や、団体のフリースペースの利用を周知してはどうか。
- ・コミュニティの取り組みや、魅力を伝えるPR動画を作成してはどうか。

発表を聞いた団体は、「始めは学生同士の関係性ができていなかったが、たくさん話し合うことで、充実した企画内容になった」、「地域の良さに気づいていないコミュニティの人たちの前でも是非発表してほしい」と学生にコメントを返した。

報告のまとめとして、藤井渉先生は、「NPO活動の盛んな地域だからこそ、このサービスマネジメントが形になる。さまざまな活動先があることで、チャレンジさせてもらえたことに感謝を忘れないで欲しい」と語った。

サービスマネジメント開始より14年が経過し、社会は大きく変容を遂げた。NPOの社会的ニーズが増え、事業化する団体の市民性も問われている。一方で、コミュニケーション不足やタイムパフォーマンスを重視する若者が増え、公共性への意識が薄い学生も増えている。大学は2025年に向け、社会福祉学部のカリキュラム改正を掲げている。NPOと学生がサービスマネジメントを通して、地域に何を還元できるのか。その意味を再確認できるよう一緒に考えていきたい。(山森)

サービスマネジメント情報交換会

日時: 2024年1月27日(土) 10:00~12:00
 場所: 知多市市民活動センター2階会議室
 対象: SL担当教員、受け入れ団体職員
 SLに関心のある方

■NPOマネジメントセミナー報告

NPO マネジメントセミナーは、11月17日

「NPO決算書の「読み方」講座」、12月5日「ファンドレイジング基礎講座」の全2回、延べ21人が参加した。

この学びの場は、NPO次世代リーダー達の横のつながりのきっかけづくりとして開催している。組織経営の基礎となる、決算書の見方や資金調達をテーマに実施した。主な概要は、次の通り。

NPO決算書の「読み方」講座

講師:(N)ボランタリー・ネイバース

理事長 中尾さゆり氏



講師の中尾さゆりさん

過去3年分の自団体の決算書から、NPO会計に基づく決算書類の見方を学んだ。NPO法・NPO法人会計基準に準拠し、「活動計算書」「貸借対照表」「財務諸表の注記」「財産目録」の4つを作成する。NPOは年に一度所轄庁へ計算書類を含む事業報告書等を提出するが、これは行政

を通じた情報開示である。例えば、活動計算書の受取会費が0円と表示されていたり、項目がなく表示されていなかったりする場合、会員がない=NPO法人として適切な運営をしていないようにみえてしまう(会費を無料としているなどといった特殊なケースを除く)ため、外に情報を伝えることを意識して作成することが重要である。

NPOの収益には、大きく「使途制約のある資金」と「使途制約のない資金」に分けられる。使途制約のある資金は、助成金・補助金、受託収益など、使う目的が絞られることも多く、継続的に受けられる保障もないが、金額が大きいケースが多い。半面、会費や寄付金など、使途制約のない資金は、一口あたりの金額は少ないが、比較的自由に安定して活用できる資金であるなど、ただ数字を追うだけではなく、事業・活動を支えるための収益の特徴や留意する点を学んだ。

非営利組織の活動を続けられるよう「財務的生存力」を高めるには、①数字を比較する ②傾向を把握する ③対策をたてる、の3つを意識するとよい。ワークでは財務分析表に、自団体の過去3年度の実績を書き込み、分析の体験を行った。特に把握しなければいけないのは、人件費率と利益率である。一般的に人的サービス

事業においては、人件費率は7～8割を超えるとバランスが悪く赤字になってしまう。数字を部門ごとに見ることは、事業ごとの状況を把握し、対策を考えることにつながる。リーダーとなるスタッフが数字を意識することで、財政的な安定・活動の成長につながる。

参加者からは、経費の内訳や事業の傾向など、自団体のスタッフや会員へも解りやすく説明できるよう工夫していきたいとの声があった。

ファンドレイジング基礎講座

講師：ソーシャルセクターパートナーすくらむ

代表 久保匠氏



講師の久保匠さん

ファンドレイジングとは、NPO等が活動のための資金を個人、法人、政府などから集める行為の総称である。一般のビジネスでは、サービスを受ける人が費用を負担する「受益者負担の原則」が成立するが、NPOが活躍する分野では、この仕組みは成立しない。このため、NPOは自分たちの活動の共感者を増やし、支援者になってもらう必要がある。ファンドレイジングは、単なるお金の集めではなく、「仲間集め」である。事業化が難しい場合も、「共感」を軸に参加者を増やすことで、ビジョンやミッションを実現していくことが、ファンドレイジングであるという。

ワークでは、自分たちの活動の支援者は誰なのかを明確にする、ペルソナ分析を行った。年齢・職業・性別・居住地・趣味・ライフスタイルなど、具体的にイメージすることで、支援者にどんな価値が提供できるかを考えるトレーニングを行った。

参加者からは、「誰に支援して欲しいかで、伝える言葉や提供方法を変えていく必要があると、改めて確認ができた」などの声があった。
(安藤)

■手づくりカフェAda-coda 20周年報告

「手づくりカフェAda-coda」のスタートは、2003年6月、代表の市野が、当時まだ知多市に転居しまもなく、法人にボランティアとして携わっていた頃、地域とのつながりを作りたいと、当時サポートした事務所があった知多市の遊休施設“ボランティア情報ひろば”に、ワンデイシェフ方式を考案した三重県四日市の

「こらぼ屋」や、岐阜県多治見市のMama'sカフェ等を参考に開店した。オープンから4年後の2007年1月に知多市市民活動センターの開業に伴い、拠点を現在の場所に移した。

スタート時、たった2名だったシェフは、現在は12団体(27人)となった。その活動の目的は様々で、定年退職後に仲間が集まる居場所であったり、将来自分の飲食店を開くための練習のためや、フェアトレードなど自分の活動を食を通じて広報する場、母国の文化を知って欲しいという海外の人たちの発信の場として、また、高校生や中学生にとっては、実社会を体験できる場になるなど、20年間変わらず、誰もが自分たちの「やりたい」を叶える場であり続けている。

今年度は、Ada-codaが20周年を迎える記念企画として、「学校給食キャンペーン」を開催した。Ada-codaという多様な人が集まる場所であっても、誰もが食べたことのある給食という共通の話題を通して、訪れた人同士の交流の機会となるよう実施した。9月から来店者やSNSを活用し展開。好きだった給食メニューやエピソードを募集し、店内に貼り出すことで、お客さん同士での会話のきっかけにもなり、また年代の違いや地域性なども加わり、話も広がった。そして、12月11日・13日の2日間にわたり、リクエストの多かったメニューを登録シェフの有志7人が給食再現ランチを提供し、60食を完売した。

この20周年プロジェクトのリーダーは、10代のコーディネーターであった。シェフ同士の橋渡しやロゴのデザインなども手掛けた。彼女のコメントは次の通り。「目的の通り、シェフとお客さんやお客さん同士の会話のきっかけを作れたかなと思っています。普段はあまり会話する機会のないシェフ同士の話も弾んでいました。たくさん盛り上がってくださったので嬉しいです。」

(安藤)



SNSや来店したお客様からのメニュー投票の様子



最も投票数の多かった、きなこ揚げパンを中心とした献立

サポちた インフォメーション

会員のみならずから集まる情報を掲載しています。お気軽に情報をお寄せください。

■みんながしあわせ 大人のかかわり方

奥田健次さん(専門行動療法士・臨床心理士)を講師に迎え、子どもが言うことをきかない、集団についていけないなどの問題行動に対する関わり方を、応用行動分析学の視点から学ぶ講演会。主催は一般社団法人BumpyCompany。

〈日時〉2024年1月13日(土)15:00~16:30 開場14:30

〈会場〉常滑市民文化会館1F ホール

〈参加費〉1,000円/人 ※中学生以上24歳以下の学生先着50名は無料(当日は学生証の提示が必要)

〈対象〉子育てや支援に対して子どものかかわり方を学びたい方
子どもとの関わりに応用行動分析学の視点を活かしたい方

〈申込〉右コードよりお申し込みください

〈問合せ〉bumpycompany5.1@gmail.com



〈日時〉2024年2月10日(土) 13:00~16:30

〈会場〉あいち健康プラザ1F プラザホール (Zoom配信有)

〈対象〉どなたでも(参加費無料)

〈内容〉①人生会議の推進、その第一歩

②体験から入居を迎えて

③『就職』を通して目指す自己実現

④『できる』『わかる』の積み重ねから、安心できる居場所づくり

〈申込〉会場参加希望は FAX0562-83-4344

オンライン(Zoom)視聴希望は1/31迄

に右コードよりお申し込みください

〈問合せ〉(社福)愛光園 法人本部 釘山

Tel0562-83-9835



■若者サポートセミナー2023

後藤誠子さん(生きづらさを抱えた人達と地域をつなぐ「笑いのたねプロジェクト代表)を講師に迎え、「不登校・ひきこもりの親が幸せな理由～安心の場がもたらす変化とは～」をテーマに親と若者の気持ちを考える。参加費無料。

〈日時〉2024年1月21日(日) 13:30~15:30

〈会場〉知多市青少年会館1F ホール (Zoom配信有)

〈対象〉不登校やひきこもりで困っている方、そうした状況にある若者の支援を考えている方、関心のある方

〈申込〉会場参加希望は若者支援センター電話0562-36-2960へ、オンライン(Zoom)視聴希望は右コードよりお申し込みください
いずれも〆切は1/17迄



〈主催問合せ〉知多市若者未来応援事業実行委員会事務局
(一社)サポートネットゆっか yucca@ma.medias.ne.jp

■第19回 社会福祉法人愛光園 実践発表会

社会福祉法人愛光園では、皆様からの日頃のご支援に感謝を込めて、「共に生きる実践 ～主体的な生き方への支援を目指して～」をテーマに、第19回実践発表会を開催する。主催は、社会福祉法人愛光園 ひかりのさとの会。

■vol.147 ジネンカフェ

さまざまな人の生き方を知り、多様な視点や価値観を取り入れることで多文化共生や多様性の視点へとつながっていくことが目的のジネンカフェ。今回は「私の居場所づくりから、想いを形にするお手伝いへ」をテーマに、サポートちた市野恵の人生観も含めて楽しくお話しする。

〈日時〉2024年1月13日(土) 14:00~16:00

〈会場〉くれよんBOX (名古屋市昭和区小桜町3-11羽ね屋敷1F)

〈アクセス〉地下鉄御器所駅8番出口より徒歩5分

〈参加費〉500円(飲食代別途)

〈問合せ〉Tel052-733-5955, jinencafe@yahoo.co.jp

■高校生介拓アワード 2023

高校生が対象の介拓奨学生プログラムとは、介護職員初任者研修を無料で受けた後、介護福祉分野で働き、進学費用を貯め、キャリア支援を受けることを目的としたプロジェクト。2023年度に本プログラムを経験した高校生の発表の場。

〈日時〉2024年3月20日(水・祝) 13:30~16:00

〈会場〉日本福祉大学東海キャンパス4F

〈参加〉関心のある方であればどなたでも 参加費無料

〈共催〉(公財)あいちコミュニティ財団/介拓PJ実行委員会

〈後援〉日本福祉大学

〒478-0047 愛知県知多市緑町12-1
知多市市民活動センター1階
Tel 0562-33-1631 Fax 0562-33-1743
Email spchita@ams.odn.ne.jp
HP <https://sunnyday-cfsc.ssl-lolipop.jp/>



特定非営利活動法人
地域福祉サポートちた



手づくりカフェAda-coda スタッフ募集

就業は 10時~15時、週2日程度
主に 接客・衛生管理等(資格不要)

サポートちたが運営するカフェは、地域住民が集う情報交換の場として、日替わりシェフが提供するランチやフェアトレードコーヒーを楽しむことができます!